

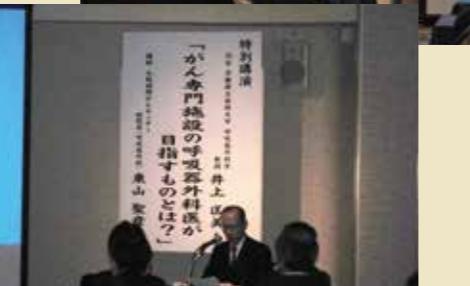
ご報告

地域連携肺がんセミナーを開催

平成30年1月27日（土）、天王寺都ホテルにおいて、第4回「地域連携肺がんセミナー（肺がん治療を考える会）」を開催いたしました。当日は、冷え込む中多くの先生方にご参加いただき、充実した研修会となりました。

当院より呼吸器内科・呼吸器外科・放射線治療科からの演題、特別講演として京都府立医科大学呼吸器外科学 井上 匡美教授の司会により大阪国際がんセンター 副院長 東山 聖彦先生から「がん専門施設の呼吸器外科医が目指すものとは？」を演題にして、実際の症例に基づきご講演いただきました。

また、当院からの情報といたしまして、4月より呼吸器外科の常勤化が決定しました。医療連携のさらなる充実を目指してまいります。



ご報告

「あべの橋消化器病フォーラム」を開催

平成30年2月24日（土）大阪鉄道病院講堂において「第33回あべの橋消化器病フォーラム」を開催いたしました。

今回は、当院の消化器内科池田医師より「腹痛、下痢、発熱をきたした40代男性」、外科畠山医長より「当科におけるTCGナビゲーション手術について」、消化器内科高島副部長より「肝硬変治療の最新情報」と三題の発表がありました。

当フォーラムは年2回開催しており、次回は7月7日（土）天王寺都ホテルでの開催を予定しております。あらためてご案内申し上げますので、ぜひご参加をご検討くださいませ。

“私達は人間性を尊重し、謙虚で誠実な医療を提供します”

【基本方針】
安全で良質な医療を実践し、信頼される病院を目指します。
多機能型急性期病院としてチーム医療を推進し、継続的な医療を提供します。
地域に根ざした病院としての役割を認識し、住民の皆さんの健康増進に努めます。
地域医療機関との連携を重視し、きめ細かな医療に努めます。
専門性を追求し、医療レベルの向上と人材の育成に努めます。

JR 大阪鉄道病院
Osaka General Hospital of West Japan Railway Company

〒545-0053 大阪市阿倍野区松崎町1丁目2-22
TEL.06-6628-2221 FAX.06-6628-4707
ホームページ <http://www.jrosakahosp.jp>

受付時間／午前8時30分～午前11時00分

診療開始／午前9時00分～

休診日／土日祝・年末年始（12月30日～1月3日）



Vol. 6
2018 March

地域連携
ぽっぽ
よりよい医療の始発駅

診療科 UPDATE

血液内科

ドクターインタビュー 部長 高 起良

医師紹介／医長 菅野 安善・間部 賢寛・百瀬 大

専門領域を究めるリソースナースたち

がん化学療法認定看護師 中島 いづみ

慢性心不全看護認定看護師 高山 真実

チーム医療を支える視点

薬剤部① 薬剤部長 東海 秀吉

登録医紹介

河島医院

ぽっぽニュース



ドクターインタビュー

今回ご紹介する診療科は血液内科。まずは部長の高が長年取り組み、相談外来も行なっているHTLV-1を中心にお話させていただきます。

部長

高 起 良

高 起 良 (こう きりやん)

1965年大阪市出身。1993年大阪市立大学医学部卒業後、同大学医学部臨床検査医学教室にて血液内科研修。99年同大学院修了。99年同臨床検査医学教室助手、2000年Max Delbrueck Center分子医学研究所博士研究員(ドイツ、ベルリン)、04年1月Aachen大学医学部博士研究員(ドイツ、アーヘン)、04年4月大阪市立大学大学院医学研究科血液病態診断学病院講師、04年7月血液腫瘍制御学講師、11年3月富山大学と漢医薬学総合研究所漢方診断学部門にて漢方治療研修。11年4月大阪鉄道病院血液内科医長、14年より現職。日本HTLV-1学会評議員、大阪府母子保健運営協議会委員(HTLV-1母子感染予防対策担当)、国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)委託費研究「HTLV-1の疫学研究及び総合対策に資する研究」(浜口班)班員、厚生労働行政推進調査事業費研究「ATL/HTLV-1キャリア診療中核施設群の構築によるATLコホート研究」(内丸班)班員、05年より「HTLV-1感染者コホート共同研究班」(略称、JSPFAD)担当

全国でも数少ないHTLV-1キャリア相談外来 ATLなどのHTLV-1関連疾患の診療も積極的に実践

血液内科医としてHTLV-1に関わったきっかけ

私は医学生の頃、血液内科の講義と病院実習を通じて血液疾患が診断から治療の最後まで一貫して血液内科医の肩にかかっていることにやりがいを感じて、また、たったひとつの造血幹細胞から白血球、赤血球、血小板といった形態も機能も全く異なる全ての血液細胞が作られる造血システムのエレガントさに魅了されて血液内科医の道を選びました。大阪市立大学医学部で血液内科医として臨床経験を積み、4年間海外で造血制御の基礎研究にも従事しました。

しかし、帰国後同附属病院で勤務していた頃、ひとりのHTLV-1キャリア妊婦との出会いがきっかけで HTLV-1

ウイルスの疫学研究に携わることになりました。その女性は小学校の教師をされており、「生まれてくる子どもへの感染リスクを減らすために母乳をやめて人工乳で育てるよう産科の主治医から言われました。しかしどうしても母乳を与える。3ヵ月未満の短期母乳であれば大丈夫とのデータを見つけたが本当でしょうか?」との質問をされました。当時の私は返答できませんでした。「JSPFAD」というのを見つけました。先生、もう少しこのウイルスのことを調べていただけませんか?と、まさに学校の先生に勉強を促される形で「HTLV-1感染者コホート共同研究班 (JSPFAD, <https://htlv1.org>)」に参加することになりました。

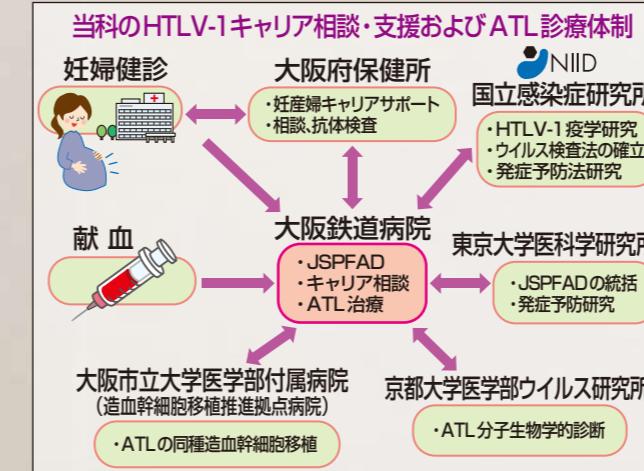
全国に108万人の感染者を持つHTLV-1

HTLV-1の正式名称は、「ヒトT細胞白血病ウイルス(Human T-cell leukemia virus type-1)」で、1981年京都大学の日沼博士によって世界で初めて発見されたヒトの癌ウイルスです(1)。Tリンパ球に感染して50年以上の長い潜伏期間を経て難治性の血液がんである成人T細胞白血病(ATL)を発症します。日本では縄文時代よりもHTLV-1感染があったとされており、現在世界の推定感染者数は約3千万人、日本国内では約108万人にのぼります(2)。感染者は以前はほとんど九州・沖縄などの西南日本に限局していましたが、最近では東京・大阪などの大都市圏にも拡散傾向にあります(3)。感染しても自覚症状はありませんが、一度感染するとウイルスはリンパ球のDNAの中で生き続けるためキャリアとなります。キャリアのわずか5%にATLが発症します。つまり95%のキャリアは生涯ATLを発症することはありません。

感染経路は、母乳による母子感染(垂直感染)と性行為感染(水平感染)のふたつです(輸血感染は撲滅されました)。日常生活で家族や他人に感染が広がることはありません。妊婦健診で抗体検査を実施してキャリアとわかれば経母乳感染を遮断するために母乳を避けて

HTLV-1に対する当科の取り組み

当科の特徴としては、血液疾患全般の急性期診療はもちろんのこと、HTLV-1キャリア相談外来を設けていることがあげられます。東京大学医科学研究所その他の研究医療機関と緊密に連携しながらキャリアの相談・支援およびATL診療に積極的に取り組んでいます。太古の昔から生存するHTLV-1ウイルス自体を撲滅することは不可能に近いですが、医療と行政の努力で感染者数を減らしATL発症を予防することをめざしたいものです。



大阪鐵道病院におけるHTLV-1感染者診療状況 (2005年9月~2017年3月までのHTLV-1感染者 長期追跡研究; JSPFAD登録数)

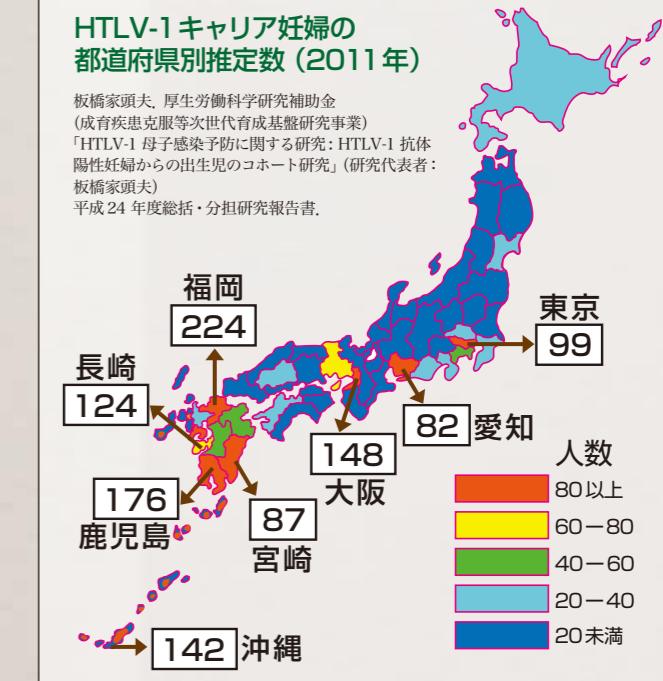
キャリア	ATL(56)				HAM*	ぶどう膜炎	計
	くすぶり型	慢性型	リンパ腫型	急性型			
341	13	11	20	12	13	7	417

(*HTLV-1関連脊髄症)

完全人工栄養が推奨されます(4)。母親がどうしても母乳を望む場合には生後90日未満の短期母乳栄養法もありますが、失敗するリスクがあり安全性のエビデンスは確立されていません(これが、先の妊婦キャリアのご質問に対する回答となります)。ちなみに、2011年大阪府のキャリア妊婦数は全国で3番目に多いことが明らかとなり大阪府の母子感染予防対策が重要といえます。一方、水平感染によって年間約4,000人の新規感染者が発生していることが最近報告されました(5)。この水平感染対策も今後の課題となります。JSPFADではどのようなキャリアがATLを発症しやすいのか、ATL発症のハイリスクキャリアを同定して発症を予防する研究が行われています。

【参考資料】

- Hinuma, Proc Natl Acad Sci USA 1981 Oct;78
- HTLV-1情報サービス (<http://htlv1joho.org>)
- 平成20年度厚労省研究本邦におけるHTLV-1感染及び関連疾患の実態調査と総合対策(山口班)
- HTLV-1母子感染予防対策マニュアル(2017.03)
- Satake, Lancet Infect Dis. 2016 Nov;16



プロフィール+α

趣味は旅行とパワースポットめぐり。最近のお気に入りは富山。ゴールデンウィークに家族で行った立山の「雪の大谷」で雪の壁に倒されました。また、奈良県桜井市にある大神神社の御神体である三輪山には40回以上登拝しています。



充実した支持療法とチーム医療体制のもと 最新エビデンスに基づく血液診療を実践。



左から、高 起良・百瀬 大・菅野 安喜・間部 賢寛

当科では、悪性リンパ腫、急性白血病、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群などの造血器悪性疾患および再生不良性貧血、特発性血小板減少性紫斑病などの血液疾患全般を診療対象に、各種ガイドラインと最新のエビデンスに基づき、化学療法、分子標的療法、抗体療法、新規薬剤療法を中心とした急性期診療を実践しています。

治療中に生じるさまざまなお悩みを軽減させ治療が円滑に進むよう、緩和ケア、漢方診療、リハビリテーション、食事栄養管理などの支持療法も重視しています。医師、看護師、薬剤師、理学療法士、ソーシャルワーカーが緊密に連携を

とったチーム医療体制で、常に患者さんに寄り添った血液内科診療を心がけています。

いまや人生100年時代ともうたわるようになった超高齢化社会。加えて高齢者が多いという地域性もあって、血液疾患は年々増加傾向にあります。糖尿病や高血圧症などを合併している患者さんも多く、血液診療を円滑に進めていく上で、かかりつけ医の先生との病診連携は非常に重要なことがあります。今後とも、よりよい関係を築いていきたいと願っておりますので、血液疾患が疑われる患者さんがいらっしゃいましたら、お気軽にご相談、ご紹介ください。

患者さんとそのご家族の生活まで考えた治療を。

菅野 安喜（すがのやすよし） 医長

2000年大阪市立大学医学部卒業。東大阪市立総合病院、東京大学大学院を経て2009年より現職。日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本血液学会認定専門医、日本医師会認定産業医。

+α プライベートの楽しみは、子どもと遊ぶこと。

当院の特徴は、患者さん中心の医療を大切にしているということです。血液内科はその性格上、厳しい覚悟が必要になることもありますが、できるだけ多くの選択肢をご用意して、患者さんの価値観に応じてベストの治療ができるよう努めています。特に近年では高齢化の進展に伴って、患者さんを看るご家族自身も高齢化の傾向があります。時には患者さんはもちろん、ご家族の生活までを考えた社会的な視点で介入する必要を感じています。ある意味、人生全てに関わることにもなる診療科である自覚のもと、ここで治療を受けてよかったと思っていただけるよう、全力を尽くします。



地域への還元、医学への貢献を目指して。

間部 賢寛（まなべまさひろ） 医長

2003年大阪市立大学卒業。大阪府内の病院で勤務ののち、2015年より現職。日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本血液学会認定専門医・指導医、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医・指導医、日本がん治療認定機構がん治療認定医、日本検査血液学会評議員、日本造血細胞移植学会認定医、細胞治療認定管理士。

+α 趣味は競輪と競艇。堺や和泉市に務めていた頃は特によく行っていました。

大阪市に生まれ、市立大学で勉強させていただいた以上、市民のみなさんの健康に資する立場として還元したいという意識で診療や研究に精進してきました。当院の地域には高齢の方が多く、強い治療が難しい方、また看取りの方も少なくありませんが、それもどこかかわなければならない部分という使命感をもって臨んでいます。また、患者さんたちの大切なデータを手にする以上、医療への貢献のために広く発信し役立てていただくことも大切だと考えています。これからは学会発表や論文にもより積極的に取り組んでいきたいと思っています。



どんな疾患にも明るく立ち向かえるように。

百瀬 大（ももせだい） 医長

2006年香川大学医学部卒業後、大阪市立大学で研修医を務め、四天王寺病院を経て2011年より現職。日本内科学会認定内科医、日本血液学会認定専門医。

+α 趣味はフットサル。なかなかメンバーが集まらないのが悩みのタネ。

血液内科は疾患の特性上、長い治療期間を要する場合が多いことや、全身の管理が必要なこともあります。患者さんとのより確かな信頼関係の構築が欠かせません。シビアな疾患が多い中でも少しでも幸せを感じていただけるよう、楽しくほがらかに接するよう心がけています。好きな疾患はビタミンB12欠乏性貧血。そう多くはありませんが、血液内科ではすぐに診断がつく上、治療効果もすぐに上がります。緊張を強いられることが多いなかで、この疾患に出会うとほっとするんですよね(笑)。とはいって、血液内科の医師として、日々やりがいを感じています。



主な検査・治療実績

非ホジキンリンパ腫(詳細内容)	平成26年度	平成27年度	平成28年度
びまん性大細胞型B細胞リンパ腫	106件	185件	136件
濾胞性リンパ腫	41件	35件	46件
成人T細胞白血病／リンパ腫	32件	54件	47件
血管免疫芽球性T細胞リンパ腫	18件	12件	3件
末梢性T細胞リンパ腫	16件	13件	16件
MALTリンパ腫	15件	11件	3件
マントル細胞リンパ腫	9件	2件	8件
リンパ形質細胞性リンパ腫	7件	7件	14件
その他のB細胞リンパ腫	6件	21件	19件
慢性リンパ性白血病／小リンパ球性リンパ腫	1件	3件	9件
上記以外の非ホジキンリンパ腫	一	8件	0件

急性白血病 MDC 名称(詳細内容)	平成26年度	平成27年度	平成28年度
急性骨髓性白血病	22件	28件	53件
急性リンパ性白血病	3件	22件	18件
その他疾患 MDC 名称	平成26年度	平成27年度	平成28年度
骨髄異形成症候群	44件	84件	127件
多発性骨髄腫	20件	28件	24件
慢性骨髓性白血病	9件	2件	8件
特発性血小板減少性紫斑病	7件	5件	3件
再生不良性貧血	3件	3件	3件
上記以外の血液疾患	6件	45件	25件
感染症	28件	26件	38件
その他の疾患	41件	20件	29件

Expert! 専門領域を究めるリソースナースたち

当院で活躍する認定看護師から、多彩な情報を発信いたします。

免疫チェックポイント阻害薬の副作用マネジメント

がん化学療法認定看護師 中島 いづみ

近年になって、がん化学療法では、体内の免疫力を活かしてがんを治療する「免疫チェックポイント阻害薬」が新たに適用されるようになってきました。従来の抗がん剤とは異なる特有の副作用(免疫関連有害事象:irAE)を発症する可能性がありますので、十分な対策が必要になっています。特徴としては、抗がん剤と比較すると副作用発症の頻度は低いのですが、多種多様で発症すると重症化しやすいといわれています。また、投与終了から半年後など、発現時期が長期に及ぶため、治療が終わっても長く経過を見ていく必要があります。



患者さんご自身へも、このような解説シートをお持ちいただき注意を促しています。

当院では、呼吸器内科の医師を中心に糖尿病・代謝内科医師、看護師、薬剤師を含め多科による連携シートを作成し、チームで対応できる体制を整えています。患者さんの来院時には看護師が問診表で確認し、医師と連携して異常の早期発見につとめています。同時に普段の生活時に異常を見逃さないよう、患者さんへの教育も薬剤師と連携して実践しています。私自身は、外来化学療法センターにおける投与はもちろん、これらの調整役として環境を整えることに力を注いでいます。

現在、当院では肺がん、ホジキンリンパ腫、胃がん、尿路上皮がんの適用のみですが、今後は適用疾患も増えてくると予測されます。かかりつけ医の先生方にも、免疫チェックポイント阻害薬の副作用についてご理解いただきたく、情報発信に努めてまいりたいと思います。何より大事なのは早期発見、早期治療ですので、該当する患者さんに少しでも異常や気になる点がございましたら、お気軽にご連絡ください。



「心不全手帳」を活用しましょう

慢性心不全看護認定看護師 高山 真実

心不全は、日常の管理が大切な病気です。悪化を繰り返すことが心機能の低下につながるので、できるだけ悪化を抑え、少しでも異常が出れば早期に対処することが管理の基本となります。

当院では、昨年11月に運動療法や生活指導を行う心臓リハビリテーションがはじまり、看護師だけで行っていたカンファレンスに理学療法士が加わるようになりました。今後は活動をさらに充実させ、将来的にはチームによる心不全患者さんの管理や指導を実践していくたいと思っています。現在は、慢性心不全看護認定看護師として一人ひとりの患者さんの生活習慣を確認し、それに沿った指導を行うとともに、病棟での指導がもなく外来に伝わるようチェックリストをつくり、病院をあげてしっかりと関わることができるよう工夫しています。

さて、心不全管理の肝となっているのが、患者さんが携帯される『心不全手帳』という冊子です。2冊の分冊になっており、

前の1冊は心不全についてご理解いただけるよう、正しい知識や生活上の注意点などの情報を網羅しています。それらをふまえてご自身の身体を管理していただくために、もう1冊は自己管理記録が項目に沿って記載できるノートになっています。まず患者さんが病棟にいらっしゃる間に入院中の経過や治療内容を記載し、ご自身のデータや体調の記入の練習をして習慣づけるとともに、退院前にはそれをもとに一緒に症状の振り返りを行ないます。

このように、病状の変化がもれなく記入されるものなので、退院後も、患者さんご自身の健康管理はもちろん、かかりつけ医の先生方との情報共有にもお役立ていただけます。きめ細かな管理は悪化の兆候の早期発見、早期調整につなげいただける重要な手段です。ぜひ患者さんと一緒に、この手帳をご活用くださいますよう、お願ひいたします。



慢性心不全症状で入院された患者さんすべてに記入をお願いしている心不全手帳。

MEDICAL POINT

薬剤部①

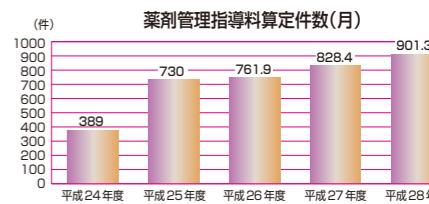
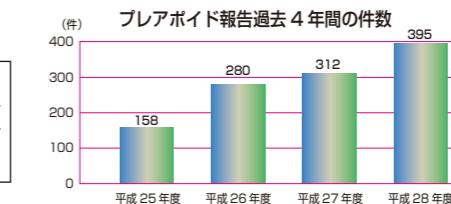
チーム医療を支える視点
薬剤部のマネジメント 薬剤部長 東海 秀吉

当院薬剤部は、私が着任した2012(平成24)年10月より年度ごとに目標を設定し、その実現のためのアクションプランを策定してきました。薬剤部員16名が一丸となって目標達成への取り組みを続け5年あまりたった今、高い成果が上がり、薬剤師の使命を拡大しています。マネジメント上で重視したのは、目標達成のための道筋、それに付随する業務などの情報を全員で共有しながら進めることでした。各人が思いついた業務改善案は、どんな小さなことでも「起案」として書面に起こし、内部決済をとつて実行することを徹底しています。すべてを「見える化」することは、一人一人の貢献が一目瞭然になりモチベーション向上にもつながります。また、院内で病院改革を推進するイノベーション委員会においても、薬剤師が積極的に参加し、多職種連携で病院目標の達成に向けて取り組んでいます。

<これまでに目標達成した代表的な取り組み>

薬剤管理指導料の算定件数・算定率の向上、病棟薬剤業務を通じた薬剤師介入事例の集積と積極的に院内に情報発信する仕組みの構築、外来がん患者指導の実施とそれに伴うがん患者指導管理料3の算定、医師・看護師の負担軽減を目的とした薬剤師による処方入力支援、医薬品購入額削減およびDPC機能評価係数Ⅱ後発医薬品指標の向上、入退院サポートセンターにおける入院前持参薬の確認、保険薬局薬剤師と協働で進める薬薬連携など

※目標とアクションプラン、実績については詳細をホームページの薬剤部ご紹介コーナーにアップしておりますので、ご興味をお持ちの方はご覧ください。



登録医紹介 医療法人 河島医院

標榜科: 内科／消化器内科／外科／放射線科
住所: 〒545-0011 大阪府大阪市阿倍野区昭和町2-1-24
電話番号: 06-6629-2110
アクセス: 地下鉄御堂筋線 昭和町駅 徒歩1分
地下鉄谷町線 文の里駅 徒歩5分



河島祥彦 院長



—御院についてお聞かせください。

1994年9月に大学を退職して副院長として当院での診療を開始し、2005年10月から、院長として全面的に診療を引き継ぎました。専門は、消化器内科全般で、上部・下部内視鏡検査を積極的に行う一方、地域のかかりつけ医として、高血圧、糖尿病、脂質異常症等の生活習慣病、呼吸器領域、循環器領域の慢性疾患、これから増加が予想される認知症に対しても幅広く対応いたしております。

—今後の抱負をお聞かせください。

阿倍野区は、大阪市の中でも高齢者世帯の多い地区です。当院の患者さんも後期高齢者の割合が非常に多いのが現状です。種々の理由で来院が困難になった方に対しては、ご希望があれば訪問診療等で対応していきたいと思っています。

—JR大阪鉄道病院へのメッセージをお願いいたします。

病診連携に力を入れておられ、地域連携を通して患者さんの紹介がスムーズにできていると思っています。また、緊急入院が必要な方の場合も迅速に対応していただき感謝しています。

—ご要望がございましたら、お聞かせください。

夜間の2次救急患者に対しての受け入れ態勢の充実を期待します。